

病欠・発熱の園児は何人？

保育園ごとに病欠や発熱、下痢などの症状がある園児の人数をインターネット経由で入力するシステムを、国立感染症研究所感染症情報センターが開発した。一定地域の保育園が一斉に利用すれば、インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行をいち早くとらえられ、対策に有効という。

保育園ごと把握 流行に早期対応

理由、登園後に発熱、頭痛、下痢、嘔吐（おうと）などの症状があった園児の人数を入力する。園ごとに集計表やグラフが自動作成され、欠席者などが一定数以上になると、注意喚起のため園医らに自動で電子メールが届く。

システムに参加すると近隣の学校での欠席状況も知ることができる。自治体の担当者は、地域の流行状況に応じた早めの対策が可能になる。

参加しているのは5月現在、全国でまだ約30園だが、一部の自治体では管内の保育園への一斉導入の検討を始めた。

小さな子供が多く集まる保育園は、多くの感染症の原因となるウイルスや細菌の受け渡し場所になり、地域に感染が広がっていくことが多く、同センターは、システムを感染症の拡大防止に役立ててもらいたい考えだ。

国立感染症研がシステム

システムは同センターが運営。保育園の担当者は毎日、欠席者数や欠席